

## 「みんなで作ろう 市民トーク」開催結果（地頭方地区）

---

### 1 日時等

- (1) 日 時 7月5日（木） 午後7時00分～午後8時50分
- (2) 会 場 トーク地頭方
- (3) 内 容 市長による市政情報、地区が希望する説明、質問票
- (4) 参加人数 60人



### 2 地区の希望する市政内容について説明（20:05-20:10）

#### (1) 地頭方小学校前の海岸への津波防潮堤工事について

相良・須々木海岸において、レベル1の津波に対応できる津波防潮堤の整備が進められています。現在その一部が完成し、コンクリート構造の巨大な防潮堤の高さに驚いているところです。

この防潮堤工事は試行的に、東沢川河口から北側の方向に進めていますが、その後の建設の位置については、見直しもあるやに聞いております。

この相良・須々木海岸には、防潮堤の起点となった東沢川河口から南側700～800メートル先の海岸沿いに、地頭方小学校があることは認識していただいていると思います。

地域住民としては、津波から子どもたちを守ることが第一であり、子ども達が安心して就学できる環境を整えなければならないのに、津波対策の防潮堤はなぜ小学校より徐々に離れ、反対の方向に建設が進んでいくのかという疑問や意見が投げかけられている状況です。

また、地頭方小学校周辺は人口が集中している地域でもあり、地域住民の安全性を高めていく必要があると考えます。

地域の子も達は、親御さん達の宝であると同時に地域の宝物でもあります。

海岸管理の管轄が国・県・市など複雑に絡んでいることと思いますが、次世代を担う子ども達のためにも、ぜひとも地頭方小学校前の海岸への津波防潮堤整備を優先して進めるよう、国・県等に強い要請をお願いします。

なお、地頭方漁港周辺での津波防潮堤工事が、次年度より進められると聞いています。この地頭方漁港の津波防潮堤工事と一体化された津波防潮堤工事となるよう要望します。

**【回答：杉本市長】**

地頭方地区の津波防潮堤工事については、平成 27 年度までに「牧之原市命を守る防潮堤検討会」及び地元説明会を得て、地頭方地区の津波の高い所から実施する方針を決めたものです。

具体的には、砂浜があるところは環境調査や海岸利用者の調整等が必要な場所であるため、それらの調査を必要としない場所から進めていこう、津波高が高いところから進めていこうということで、平成 28 年度から早期に実施できる東沢川北側の地点から工事に着手したものです。

その後、地元から工事場所等の変更要望があることは承知しておりますので、地頭方漁港の津波防潮堤工事との一体化を含め、県及び関係機関と調整をしていきたいと思えます。地元の関係の皆さまと調整があろうかと思えますので、ぜひとも支援をいただきながら、ご要望にお応えしていきたいと思えます。

**3 個人からの質問票による意見・質問（20:10-20:50）**

**（1）救急体制について**

先日、組内の女性が倒れました。救急車が到着後 40 分ぐらいしてからやっと藤枝市の病院に搬送されました。その後その方は亡くなりました。

近くに 2 つの総合病院があるのになぜそんな遠方までいかなければならないのかが分かりません。病院に早く行けたら助かったかもしれないと考えると残念です。

**【回答：杉本市長】**

救急車が到着して 40 分経つというのは、私も問題があると思えます。志太榛原 4 病院が連携して、救急の患者を受け入れるように調整しているところです。今回の内容はしっかりと病院に伝え、こうした事態に陥らないように早期に到着し、行き先の病院に行けるよう努めてまいります。

**（2）国保の運営が県中心に変わることにについて**

介護料の算定では、医療分、後期分、介護分共に資産割を使用しないことが県の目標である。市の本年度の資産割税率は医療分 17%が 10%に下がったが、高齢期 6%が前年度と同じである。今後県中心に向けてどのように変えてゆくののか。

**【回答：桑田市民生活部長】**

今年度の国民健康保険の予算総額は約 49 億円で、このうち約 35 億円を県が負担し、11 億円を国保税で賄い、3 億円を市の一般会計で補てんしています。

11 億円の国保税は、所得割、資産割と、世帯割の均等割、被保険者数割の平等割の 4 つに分けて税額を計算しています。全国の 1,741 の市町のうち、この方式を採用している市町の割合が全体の約 6 割ですが、前年度から 31 市町が減少しています。

一方、資産割のない市町が約 34%で、こちらは前年度より 34 市町が増加しているという状況です。

ご質問にありましたように、今年度から国保の運営主体が県となり、県では、将来的に、資産割を無くしていく方針ですので、市としても、将来的に資産割を無くしていく方針としました。

ご指摘のとおり、昨年度まで資産割の率は 17%でしたが、今年度から 10%に引き下げをしました。ただし、医療費に必要な 11 億円の税金を確保するためには、資産割を引き下げた分を所得割、均等割、平等割を引き上げて賄わなければなりません。試算したところ、前年度からの繰越金もありますので、資産割を徐々に引き下げていくとともに、所得割、均等割、平等割を少しずつ引き上げていくことにより、賄うことができる見通しが立ったことから、今年度については、均等割と平等割は引上げずに、資産割を引き下げることにしました。

来年度以降も、必要な医療費を確保しつつ、皆さんに大きなご負担とならないように、数年をかけて、医療分だけでなく、後期高齢者医療の支援金の分についても、資産割を無くしていきたいと考えています。

- (3) 万一、最大想定 of 津波が発生した場合の避難体制、海岸近くの家屋は流されると思うので、仮設住宅の規模設置場所の案内が欲しい。

**【回答：近藤防災監】**

避難には二つの段階があります。まずは、押し寄せる津波から安全を守るという段階の避難。そして避難所などの場所でしばらく避難生活を送るという避難です。

最初の避難については、強い揺れを感じたら直ちに最寄りの高台に逃げただけ。それしかありません。市としましても、大津波警報などを伝達しますが、それを待つことなく直ちに逃げてください。

続いて避難生活です。今年、県から避難生活の手引きと避難所運営マニュアルが出ました。インターネットでも見ることができます。

被災をして家を滅失した、あるいは損傷したということで避難生活をする。そして避難生活から仮設住宅などに移り、生活再建をするまでの一連のストーリーが描かれています。

避難生活と一口にいても、実は多様な生活があります。東日本大震災の時には、在宅避難というものが注目されました。つまり避難所に入るよりも、自分の家にいた方がいい。例えば、最近のツーバイフォーの家ですと、津波で一階がぐしゃぐしゃになっても、二階には住めることがあります。私は当時、自衛官で現地にいました。津波に流され、瓦礫が押し寄せた一番奥に二列だけ住宅が残っていました。つまり瓦礫に埋もれた家の中で、まだそこに人が住んでいた。そういった生活をなさる方もいます。この時を境にして、それらの方にも給食や給水などができるようになりました。

また2年前の熊本地震の時にも現地にいました。熊本地震の時には、2回にわたる震度7の揺れが起き、多くの家が倒れました。そのため「屋根の下にいるのが怖い」ということから車中泊をする。車中泊をすると、寝返りがうてませんから、エコノミー症候群になる方がいる。それを防止するために、沢山のテントを準備することになります。車中泊やテント泊といった非常に多様な避難形式が、近年生まれています。

地頭方地区における指定避難所として準備されている場所は、トーク地頭方、地頭方幼稚園と保育園の遊戯室、そして御前崎中学校が今年度から使えるようになっています。

仮設住宅の規模と設置場所ですが、まず仮設住宅も東日本大震災を境にして、必ずしもプレハブの建築型にはこだわらず、借上げ型の仮設住宅もあります。設置型の仮設住宅は、材料費から工賃など様々な付帯設備の金額を含めて561万円と定められています。これは何も561万円ぴったりと同じ物・同じ企画の物を作るものではなく、例えば单身の方がいれば单身用の物を作る。または世帯用であれば、世帯用の物を作って、その平均が561万円の基準に収まればよいと定められています。

また土地が狭い環境であれば、女川のように45フィートコンテナを3段積み上げて、集合住宅のように作ったケースもありますが、あれは見た目以上に快適で好評であったと聞いています。

この付近で仮設住宅の用地としては、御前崎中学校のサブグラウンド、新庄池のグラウンド、地頭方公園などが候補地としてあげられています。こうした形で市としても準備をしています。

### 【再質問】

地頭方は防災無線が各戸にあります。デジタル化によって屋外放送になると聞きましたが、なぜそのようになるのですか。住宅が二重構造のサッシになっているので、屋外の同報無線は家の中にいると聞こえません。そのあたりの対応は、どのように考えていますか。

**【回答：近藤防災監】**

防災無線の切り替えに関する事だと思えます。今の防災行政無線は昭和の年代に作りましたので、アナログ放送です。これをデジタル化するという事で現在、検討を進めています。

各業者から、どういう形にすれば最も良いかということで、屋内型の物も含めて業者に提案をしてもらっています。その中から最も優れたものを選ぶように検討を進めています。今のアナログの室内型受信機は使えなくなりますが、今は皆さん、スマートフォンをお持ちです。しかし携帯を持っていないお年寄りの方もいますので、また検討させていただきます。

予定としては32年度までの3年間で整備予定ですが、今のところ断定的なことを言えず申し訳ありません。

**(4) ソーラー（太陽光発電）が増設されるが、観光資源、教材等の検討はされたか？**

**【回答：横山副市長】**

牧之原市ではエネルギータウン構想という計画を策定しています。地球温暖化防止対策につきまして、再生可能エネルギーである太陽光発電・風力発電、あるいはバイオマス発電という新しいエネルギーの活用を推進しているところです。地頭方区内で、新日邦がメガソーラーの増設の計画がされていますので、観光資源や教材という観点ではございませんが、先ほど申し上げました再生可能エネルギーを促進するという考え方で進めています。

ただ事業者さんから希望があれば、その施設を見学させていただけるということは聞いていますので、もしご要望があれば市役所が連絡調整させていただきます。

**【再質問】**

メガソーラーの件ですが、今の段階で、農地にこれまでと違う鳥獣被害が出ていると思えます。この因果関係は確実ではありませんが、森林破壊によって今まで住宅街には来なかったハクビシンが下りてきて、例えばこれまでならカラスなどに備えれば良かったのですが、今は下からやられています。

そういったものを含めて、いま、遺跡も調査していると思えますが、それと同時に環境の調査についても、業者に指導していただきたい。

これから作物を作っていくという時に、作るものがなくなってしまうのでお願いします。

**【回答者：横山副市長】**

現状の確認をしながら、業者にもきちっとこちらから伝えていきたいと思

ます。造成をする時には土地利用対策委員会の中で、施設に関する制約やこちらからの指導はしていますが、その使い方や観光・教材に関することを、きちっとやってくださいというところまでは、なかなか指導ができない。お願いをすることはできますが、義務化までは難しいと思います。先ほど言ったように、見ていただける場所も設置していますし、中を周遊することはできます。

#### (5) 小学生の陸上競技大会の継続について

先日、開催された小学生榛南地区陸上大会は、今回を持って打ち切りということのある保護者より聞きましたが、なぜ打ち切る流れになったのですか？

橋本教育長様の就任挨拶の中に、未来に向かって志を持ち、たくましく活躍できる夢ある人づくりを進めるとあります。専門技術指導者不足が原因なのか、教職員の業務負荷が「大」になってしまうのか、授業日数が不足してしまうのか。頑健な子供たち育成のためにも継続していただきたい。

#### 【回答：橋本教育長】

今年度をもって、南地域陸上大会は終了になります。さらにい〜らで行っている音楽発表会も本年度をもって終了となります。

経緯についてですが、まずこれらの大会は、教育委員会の主催ではなく、一般社団法人榛原地区教育協議会というところが主催しています。過去には水泳大会もありましたが、ずっと陸上大会と音楽発表会を続けてきました。本年度をもって終了するということについては、昨年一年間をかけ、保護者等へ丁寧な説明、周知してきたということは伺っています。

たしかに陸上大会は、各校で競い合って、走る姿や競技をする姿は頼もしいものです。私も今年は招待してもらい応援に行きました。なぜこれを止めるのかという声も聞かれました。

一つには、新教育改革が2020年から始まります。小学校に外国語が導入されたり、授業が過密になっていくことは事実です。6月末に陸上大会を行うということになると、6年生は4月当初から、小さな学校だと4年生ぐらいから、取り組んでいます。そして練習時間がままならない。会議もなかなか組めないという状況があります。

スポーツについては、スポーツクラブや様々な活動に移していこうということで、今年をもって終了と聞いています。またこれに替わるものができるかどうかについては、校長会などで検討していきたいと思います。

#### 【回答：杉本市長】

教育長から話がありました陸上競技大会の関係は、私も非常に残念だと思っております。それに代わるものを何かできないかと教育長と話をしています。南地域でだめなら、牧之原市でやればいいのかという考え方もあります。

また体協の陸上部の皆さんも本当に頑張ってくださいています。陸上教室を開催するなどしていますので、今回の陸上競技会も体協の陸上部の皆さんが半分ほど15・6人がボランティアで出て、大会の運営をしています。体協にお願いするのも一つの方法です。何とかそういった声に応えるように検討したいと考えています。

#### (6) 環境保全センターの建て替え等について

笠名地区にある環境保全センターのライフサイクルコスト（生涯費用）、建設費に対して修繕費が上回るという状況になった時に、寿命という言い方がされています。残り2年が限界であると聞いています。

建て替え地や規模などの計画は順調に進んでいるのか、あるいは隣接市町との意見交換なども進められているのか。現段階で公開できる範囲内でけっこうですので、お話していただきたい。残り2年はすぐに来てしまいます。

#### 【回答：杉本市長】

残り2年ではなくて10年弱です。1～2年前に10年と言っているの、あと8～9年くらいだと思います。皆さんご存知の通り、牧之原市には2つのごみ処理施設があります。旧相良地区には笠名、旧榛原には細江にあります。

この2つともライフサイクルコストがあと10年弱で寿命を迎えるということです。ただこれは計算上の数字であり、すぐに潰れてしまうということではありませんが、一つの限界を迎えるという時期が来ているということは事実です。

今、市内にある2つの施設、1つは御前崎市と牧之原市、もう1つは牧之原市と吉田町とで運営をしています。この2市1町で施設を今後どうしていくか話し合いを進めています。これらの施設を両方とも建て替えるのか、人口減少が進む中で2つ新しいものを作るというよりも、今の時代は今ある2つの施設を1つにまとめるということも含めて検討しています。

なんでもかんでも古いものを潰して新しいものを作ればいいという時代ではありません。今は「長寿命化」ということも検討材料の一つとなります。長寿命化をしてあと20年延命措置を講ずれば、コストが安くなりますので、その両面について、両組合・両市町で検討しています。

ここ1～2年の間にある程度結果を出そうと進めていますので、いろんな形で報告させていただきたいと思います。

#### (7) 地頭方プールについて

地頭方のプールが今年度で終了します。市の対応として、地頭方地区内に今後設置する方向でいくのか。

**【回答者：杉本市長】**

このプールについては、設置の検討はしていません。それに代わるものとして、地頭方海浜公園を拠点に、地頭方地域の活性化を目指す「ボレスト地頭方」という地元の皆さんが立ち上がり、地頭方の海浜公園・地頭方漁港周辺の活性化を図りたいということで、市と協議をしているところです。プールに替わる賑わいをもたらすような、活性化をもたらすような形で活用していきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

**【再質問】**

地頭方海浜公園のプールについて、先ほどの説明だと、新しい防波堤が海浜公園のところにできるから取り壊すという説明でした。この大きな防波堤は国の事業ですが、市の大事な施設がこの事情によって取り壊される。国や県に補償について交渉していますか。

**【回答者：杉本市長】**

今回は、防潮堤の工事のためにプールの営業が終了するということですので、通常の場合は損失補償という補償を貰える事業です。しかし耐用年数が来ていて残存価値がほとんどない状況ですので、造り替えるだけの費用までは、今回の補償の中では出ません。取り壊す費用と残存価格が少しあるので、若干の上乗せはありますが、とても建て替えるまでのお金が出るものではありません。そうした意味で、今回はそれに替わる賑わい、活性化をするような形で、あの場を活用できればと話し合いを進めています。

**(8) 市の活性化について**

去年の12月に、12年間単身赴任をしていた金沢から帰ってきました。私を感じ聞いた「子どもを増やす、人口減少に対応する」という話の中で、牧之原市の魅力あるもの・活力が、隣接の吉田町や御前崎市に比べて劣っているように感じます。150号線を通っていても、御前崎市はほぼ完成して、牧之原市に来ると止まってしまいます。吉田町は完成していて、牧之原市に来ると止まってしまいます。こうした状況で、住んでいる若い人たちは、家を建てる時に「吉田に建てよう、藤枝に建てよう」と思うと思います。牧之原で1～2箇所そういう活力・活性化・まちづくりが目に見える形で進んでいけば若い人たちはいると思います。他から比べて新しいものが全て遅いように感じます。そういったところで、主要幹線の話はどうなっているかお聞きしたいです。

**【回答者：杉本市長】**

先ほど私が説明させていただいた中で、牧之原市には東名高速道路の相良牧之原インターがあります。相良牧之原インターから473号バイパスが大沢に向



かっていて、大沢から 150 号バイパスが御前崎に向かって完成しています。そして新たな道路として計画されているのが、大沢インターから片浜までの 150 号バイパスの新設です。そして榛原地区は静波においては、今の現道を 4 車線化が計画されています。そう考えると 473 号バイパス・150 号バイパスは、すでに完成しています。

先ほど説明した一つの核として、相良牧之原 I C 北側に 23ha の開発を行い、そこに大型商業施設やアミューズメントを招致するという形で、若い人たちが定住したい、あるいは雇用を生むという場所を整備しています。

また 15 km の海岸線は自然環境も含めて、あるいは海の幸が揚がる場所としても、私は素晴らしいものだと思っています。先ほどのサーフィンのホストタウンもそうですが、自然環境など良いものがたくさんあると思っています。

東武トップツアーズとの包括連携協定の話もしましたが、先日来庁した東武トップツアーズの社長は「牧之原市の皆さんはこの地域を見て当たり前と思っているかもしれないが、当たり前の中に非常に素晴らしい良さがある。そういう都会の人たちから見て素晴らしい所を我々もしっかりと発信していく」ということで、賑わいをもたらし、定住につなげるために、そうした皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

#### (9) 地頭方多目的広場の整備

海浜公園の活性化ということですが、地頭方で 1 つだけ多目的広場があります。今までは J A 年金友の会の役員大会があると、15・6 人の役員で大会前に整地していました。役員も女性が入ってきて、大会も年に 3、4 回と期間が空きます。そうしますと草が生えて、整地するにも「草刈り機の刃が飛んだ」などして、とうとう放置してしまい、御前崎市内でお金を出して実施しました。

トイレ・倉庫・駐車場がちゃんとしていますし、あれだけの設備があるのにもったいないと思います。一度整地していただければ、あとは地区や支部で責任を持ってやっていくというような体制にもっていけば持続できると思いますが、いかがでしょうか。

#### 【回答者：杉本市長】

皆さんの、憩いの場・楽しむ場でありますので、担当が現地を見させていただき、しっかりと対応できるようにご回答させていただきたいと思います。

#### (10) 御前崎港のバイオマス発電

年間 35 万トンの電力を必要とする発電所を、御前崎港のところに作ろうという計画があると聞いています。御前崎では説明会がありましたが牧之原市ではそういう説明がありません。35 万トンの燃料を使う発電所がいろいろ大きな問題をはらんでいるし、供給源の国も色々な問題が生じてくるかと思っていますし、

津波も心配です。牧之原市としてはどんな考え方をしているか教えてください。

**【回答者：杉本市長】**

バイオマス発電については、今、環境アセスの調査を進めているということですが、まだ説明会を開くレベルまでいっていないと私は思っています。

事業者は漁協とは話をしていると聞いています。今までは水冷方式のため温水が海に入ること、生態系に影響を及ぼす心配がありましたが、今はその冷やすことを風冷でできるということです。そうすると漁協も問題がなくなるということ聞いています。今どの時点でどうなっているのかについて、御前崎で説明会を行ったということであれば、半分は牧之原ですので、事業者に対し説明を求めていきたいと思えます。

**【再質問】**

事業者がトーク地頭方で、この事業に対して意見があれば書いてくださいと投票箱を設置しました。ゴミ処理場にも置きました。意見を書きましたが、その答えも返ってきません。どんな方向性があるか。また市としてもこの問題に対して全然タッチしないうちに5年が過ぎ、気づいたら作ってしまうという状況に陥らないようにしてもらいたいと思えます。

**【回答者：杉本市長】**

わかりました。そのへんについては、しっかりと対応するように事業者と話をさせていただきたいと思えます。